

(参考資料)

<データ論文とは>

『データ論文とは、観測データ、測定データ、分析データ、計算シミュレーション結果等の公開データに関して、データの内容・取得方法・データ形式・アクセス情報等を記述したものであり、そのデータの分析、解釈、科学的結論を含まない論文と定義される。』

末次大輔, 2017, 投稿原稿種類「データ論文」の新設にあたって

<https://doi.org/10.5918/jamstecr.24.21>

『品質評価され再利用に適した形で提供されるデータセットの公開を「データ出版」と呼ぶとすると、その実データについての付帯情報（メタデータ：たとえばデータ生成の手法、特性、利用方法など）を記載した論文が「データ論文」と呼ばれる。』

南山泰之ほか, 2017, データジャーナル『Polar Data Journal』創刊の取り組み

<http://doi.org/10.1241/johokanri.60.147>

<他機関、学会等の動き>

- ・JAMSTEC 「JAMSTEC-R」にカテゴリー「データ論文」を新設（2017年；ただし2019年に廃刊）

- ・極地研 データ論文専門誌「Polar Data Journal」を創刊（2017年）

<https://pdr.repo.nii.ac.jp>

- ・測地学会 「測地学会誌」において、通常の論文と混在させる形でデータ論文の受付を開始（2022年）

<東京大学学術機関リポジトリ（UTokyo Repository）>

- ・一般の論文の投稿のために利用できるリポジトリ。現状では一件あたり500MBまで。

- ・学内の紀要等におけるデータ論文のリポジトリとしての利用実績はこれまでない。

- ・地震研彙報におけるデータ論文のリポジトリとして、UTokyo Repositoryに限定する必要はない。しかし、東大地震研の研究データは東大のリポジトリに置くのがもっともふさわしいと考えられ、その意味でUTokyo Repositoryを利用することを学術報告委員会としては推奨する。

<想定されるデータ論文の構成例>

abstract

introduction / background

location, site

method
data records / validation / usage note
figures / tables
references

<地震研究所彙報におけるデータ論文のフローチャート（イメージ）>
（この図では論文の改訂のプロセスは省略しています）

